

海軍舞鶴



鎮守府開庁120年

このまちの湊は、この国の港になった

120年の歩み

「まことに小さな国が、開化期を迎えようとしている。小さな国といえは、明治初年の日本ほど小さな国はなかったであろう。」小説『坂の上の雲』で司馬遼太郎が表現した明治という時代の夜明けから30年後。

明治34(1901)年10月1日、日本海側で唯一の鎮守府(海軍の拠点)として、舞鶴鎮守府が開庁した。当時の日本は、幕末の開国以来「富国強兵」のスローガンのもと、欧米列強に対抗するため、産業と軍備の近代化に取り組んでおり、中でも海軍の強化を国家プロジェクトとして進めていた。

鎮守府の設置が決まると、中舞鶴から東舞鶴にかけての海沿いの村々には、当時の最先端の技術や設備が投入され、大きな艦艇をつなぎとめる岸壁、造船所や機関・兵器の製造を担う工場、赤れんがの建物などが次々と建設されて

いき、国防上欠かせない重要な港となった。また、先端技術の粋を集めた水道や鉄道などの都市基盤も整備され、多くの人とモノが集まる活気あふれる近代的な都市へと発展を遂げた。

今年、海軍舞鶴鎮守府開庁120年の節目の年。舞鶴市発展の礎となり、日本の近代化を支えた舞鶴鎮守府の歴史を市民の皆さんと一緒に振り返り、まちの歴史と魅力、平和の尊さを若い世代に引き継ぐための1年としたい。

《観光振興課、広報広聴課、文化振興課、企画政策課》



▲海軍舞鶴鎮守府開庁120年ロゴマーク

日星高校は重砲兵大隊だった

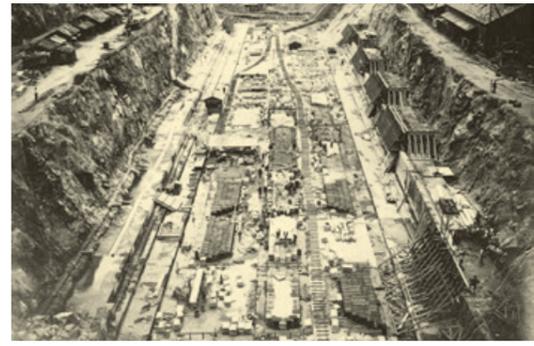
日星高校には、かつて陸軍の舞鶴要塞砲兵大隊重砲兵大隊が置かれていた。下の写真に写る正門が現在も学校の正門に使用されている。砲兵大隊は、鎮守府開庁前の明治30(1897)年、倉谷の東山寺で活動を始め、翌年、現在の日星高校の場所に移転した。「舞鶴で陸軍」と思つかもれないが、陸上の要塞や砲台を使って、軍港を守るのは陸軍の役割だった。青葉山ろく公園や五老ヶ岳公園なども旧軍財産を転用した施設である。



▲舞鶴要塞砲兵大隊の正門

「造船のまち」のはじまりも海軍

- ◆完成当時は日本一のドック
現在のジャパンマリンユナイテッド株式会社は、海軍の艦艇の建造や修理を担当する鎮守府の施設「舞鶴海軍工廠」が戦後、民間企業に引き継がれたもの。3号ドックは完成当時、日本一の大きさだった。海軍工廠の設置以来、造船は舞鶴の重要な産業となった。10月には、造船とものづくりの歴史を振り返る記念展示も開催。
- ◆日本遺産WEEK「舞鶴艦物語～技術とものづくり～」
【日時】10月5日(火)～31日(日)9時～17時
【場所】赤れんが2号棟
【内容】明治時代から現在まで舞鶴で建設された艦艇を描いたペン画77点などを展示



▲3号ドック(ジャパンマリンユナイテッド株式会社舞鶴営業所提供)



ある日、日星高校で
進路が決まった?
都会で就職かな...
舞鶴さんがある?!



ねえ!舞鶴は今年で鎮守府開庁から120年らしいよ!
日星高校も昔陸軍の重砲兵大隊の基地で海軍をサポートしていたんやっつて!



ほんとだ!面影がある!



よし!せっかくだし、鎮守府を調べてみよう!